

Title: 「海外フィールドワーク引率ブログ2010」



引率スタッフ

● 最近のエントリー

- ☞ Day 135, Ride on Linear Motor Car, Shanghai, China (2010.07.31)
- ☞ Day 134, News from Shanghai, China (2010.07.30)
- ☞ Day 133, Expo 2010, Shanghai, China (2010.07.29)
- ☞ Day 132, How to Order the Chinese Hot Pot, Shanghai, China (2010.07.28)

● アーカイブ

- ☞ 2010年09月
- ☞ 2010年08月
- ☞ 2010年07月
- ☞ 2010年06月
- ☞ 2010年05月
- ☞ 2010年04月
- ☞ 2010年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.31

Day 135, Ride on Linear Motor Car, Shanghai, China

Tweet

いいね! 0

チェック

引率スタッフ佐藤です。

今日は中国での再集合都市、広州へ一人先んじて移動します。

広大な中国の数ある都市の中で、なぜ再集合都市＝中国出国都市が広州なのかというと、スクーリング施設のあるマレーシア・クアラルンプールに格安航空のエア・アジアが就航している中国の都市の中で最も利便性が高いからです。

エア・アジアは現在、中国本土では広州のほかには天津・成都・杭州・桂林・深セン・漢口の路線があり、また特別行政区の香港・マカオにも就航しています。

この中で、国内線の他都市への便数も多く、クアラルンプール便の運航時間帯が良くて料金が安く、都市としても沿岸の大都市で日本への直行便もある、といった理由でここ、広州を選んでいます。（香港・マカオは入出国手続きを要するので除外しています）

もっとも、FW 1期・2期では北京で集合し、天津まで車で移動してから船でソウル・仁川へ行き、ソウルからクアラルンプールへ飛んでいました。

現在の広州集合になったのはオリンピックで北京集合が難しかった2008年のFW 3期からです。（そういえば、3期は本来、カトマンズ～ラサ～成都で中国入国のはずが、ラサ暴動や四川地震の影響もあり、カトマンズから広州への直行便に変更になっています）

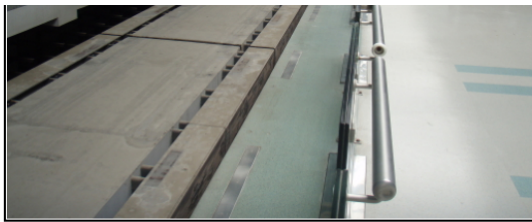
それはさておき、広州へのフライトは上海にふたつある空港のうち、浦東空港を利用なので、市内から空港まで、リニア・モーターカーに乗ってみました。世界で唯一のリニア・モーターカーの営業路線です。

日本では「リニア・モーターカー」ですが、中国語で「磁浮列車」、英語だと「Maglev Train」です。運賃は普通車片道で50元ですが、当日の航空券を提示すると2割引きで40元になります。



線路（軌道）はモノレールみたいな作りですが、きっとこのどこかに磁気を発生する装置があるのでしょう。





先頭車両は平べったく、一応空気抵抗を考慮しているようですが、最新の日本の新幹線ほど考えているようには見えません。まあ、8分間隔の運転時間ですから、あまり考えることもないでしょう。



駅にあったパンフレットによると、全長28.863km、最高時速431km/h、運行時間7分20秒だそうです。

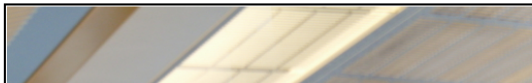
列車内部。普通車は3+3席で、座り心地はボチボチ。まあ、8分の乗車時間ですから・・・。
(8分なので貨客車を見に行く時間ありませんでした)



そして各車両には現在の時刻と時速を示す電光掲示板が。出発時間は10:45なので、まもなく出発です。



出発1分後、すでに時速は152キロ。走行音は静かですが、若干の横揺れがあります。(路線が全体に少しカーブしているからでしょうか)





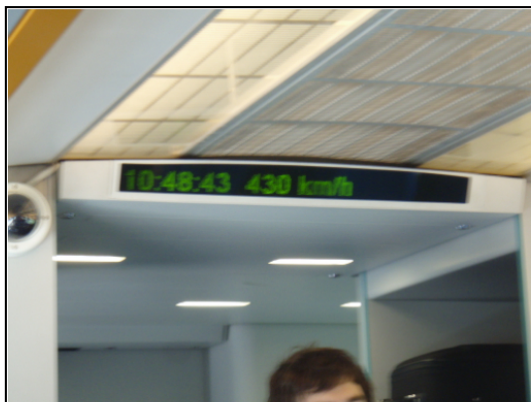
出発2分後、時速297キロまで加速。さらに加速しますが滑らかな加速なので、加速Gはほとんど感じません。



そして出発後3分を過ぎたころ、最高速度の431キロに達しました。

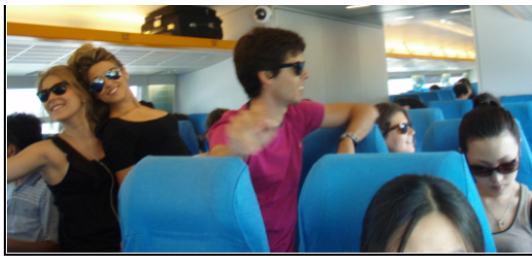


そのまま30秒ほど最高速度を維持した後、すぐに減速しはじめます。



乗っていたイタリア人はあまりの速度にバカ騒ぎ。お国が誇るフェラーリより速いんですから、興奮するのも分かりますがねぇ・・・。





車窓からの眺めは案外、スピード感がなく、撮影してもほとんどブレません。



やがて浦東空港が見えてきました。



そして、あっという間に空港駅に到着。パンフ通り、7分20秒ほどの所要時間でした。



この路線は短い距離なので最高速度を維持できる時間はわずかですが、長距離になればなるほど、その速さは移動時間の短縮につながるはず。なにせ、東京～京都くらいの距離をこのスピードなら1時間ほどで運んでくれるのですから。

日本のリニアはまだ実用まで時間がかかりますが、もしかすると、中国の方が先に主要都市間でのリニア運転を始めるのでは、と思える体験でした。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.31 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

10.07.30

Day 134, News from Shanghai, China

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

昨日のブログで世博の様子をアップしましたが、今の上海はまさに世博一色！（言い過ぎ？）

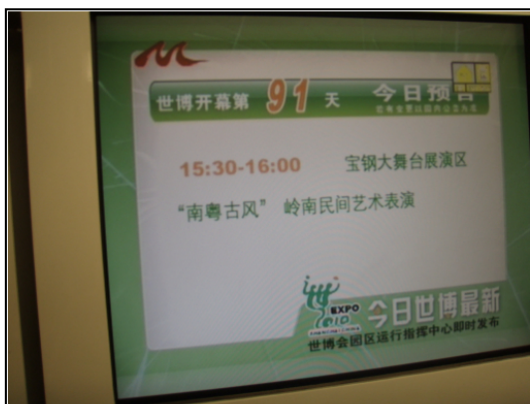
地下鉄車内のモニターでは、世博の宣伝や、入場者数、イベント情報などが流され続け、合間に地下鉄マナーの啓蒙や時事ニュースが挟まれる感じです。



イメージ映像



今日の最新入場者数：246,384人（10:16現在）



今日のイベント：15:30～16:00に大舞台で南×古（←国名？）風の民間芸術が演じられる





ドアが開まる間際の駆け込み乗車禁止

地元紙の「上海商（←？）報」でも「世博商报」という特集記事があるくらいで、今日のトピックは「園外盒飯混帯入园叫売 均為小販自制 一人最多带进 10 盒漁利百余元」。



意味はおそらく「世博で外から弁当が持ちこまれ売られている。10個持ちこんで100元以上、儲けている。販売は自制されないといかん」みたいな内容です。（漢文の記事からの想像ですので、多少、正確さを欠くかもしれません）

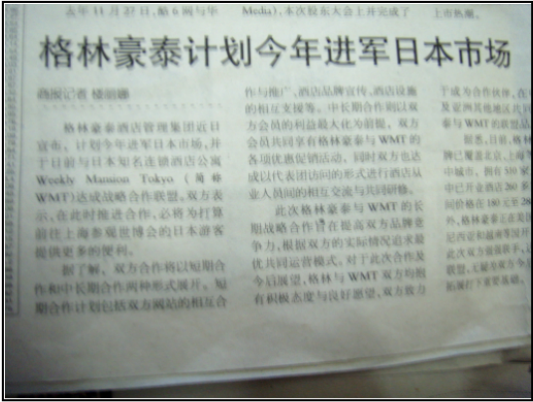
記事いわく、「万博の昼飯代を節約したい人のために、本来8元程度の弁当を20元くらいで売り、10個で200元の売り上げ。一番安い入場料を引いても100元以上儲けている。外から持ち込んでいるので衛生的にも保証されない。この状況を世博商業管理部に伝えたところ、世博局は今月中旬、本人用の弁当のみ持ち込み可、他の食品原料などは持ち込み不可という通告を發布した。」

確かに世博会場内のレストランはそれなりの値段（私がスリランカ館で食べたカレーは48円でした）ですので、庶民の知恵として、こうした商売が出てくるのでしょう。

そういえば、行列している間に胡瓜（きゅうり）をかじっている中国人を多くみました。暑氣払いを兼ねたおやつみたいですが、これも庶民の知恵なのでしょう。

上海商报で他に目についた記事がふたつ。

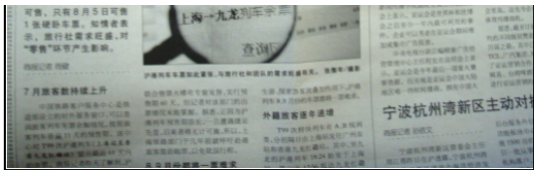
ひとつは、「中国のホテルチェーンが、日本のホテルチェーンと提携した。世博に来る日本人マーケットを見据えていることだ。この中国ホテルチェーンは国内に100都市以上、510のチェーンホテルを持ち、大多数が一室180元から280円で、アメリカやインド、インドネシア、ベトナムなどにもチェーンを開発している。」



このホテルチェーン、岡田さんと濱口さんが上海で泊まっていたホテルです。（←と書いたら、コメント欄にあるとおり、岡田さんから「上海でなく南京で泊まったビジネスホテルです」と訂正が入りました。正しくは岡田さんが南京で一人で泊まっていたホテルです。私の勘違いです。謹んで訂正させていただきます。） m(_ _)m

もうひとつの記事は「上海～香港の列車（夜行）チケットが向こう11日間で一枚だけしか残っていない。」





記事の内容は「世博や、夏休みの学生旅行、外人などで需要が伸び、5月に二等寝台を412席から478席に増やしたのに、向こう11日間では8月5日に二等寝台が1席しか残っていない。(昨晚8時現在)」

「夏のオンシーズン、上海～香港の往復飛行機代は3,500円(¥46,000円)だが、列車は二等寝台中段で片道395円(¥5,200円)、一等寝台上段で701円(¥9,300円)。個人でも往復割引で1割引きだし、旅行会社手配なら4人以上の片道で3割引き、往復で4割引きになる。」

「利用客は地元香港やマカオの人が案外少なく、10%以上が欧米、オーストラリア、フィリピンなどの外人客だ。」

この記事の路線ではありませんが、今回、学生の希望で上海の旅行会社に上海⇄広州の寝台列車の手配を事前に依頼していました。

ところがチケットは売出日にほとんど完売したそうで、一日3便ある便のうち、上海を午前発・広州に早到着という、時間的に中途半端な列車の寝台をコネでやっと押さえてもらったくらいです。

(旅行会社は取りづらい理由に、世博や学生需要、それと転売目的のダフ屋の存在を理由にあげていました。)

そのやっと取ってもらったチケットを学生に届けに、濱口さんが泊まってるホテルへ。

(岡田さんと濱口さんと泊まっていたホテルは混んでいて延長できず、岡田さんが南京に移動した後に上海に残っている濱口さんは、西安から移動してきた浅井さんと一緒にホテルに宿替えしています。やはり世博特需でホテルが取りづらかったそうです)

ホテルに着くと、北京から野尻くんも到着し、チェックインしているところでした。(夜行列車で広州に向かうのは濱口さん、野尻くんの二人です)



ちょうど昼どきだったので、3人で昼食へ。(なぜかイタリアン)

私と濱口さんが頼んだランチセット(パスタ・サラダ・ミネストローネ・コーヒーで20円)はまあまあでしたが、単品でパスタ・ピザ・ドリンク(合計60円)を頼んだ野尻くんのは大はずれ。パスタは激辛、ピザは要に甘く、コーヒーフロートと思って指差し注文したドリンクはコーラフロート、と散々です。



野尻くん、涙目です。

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.30 | [バーマリンク](#) | [コメント\(1\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月アーカイブ

10.07.29

Day 133, Expo 2010, Shanghai, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフのブログ

現在、上海では万国博覧会（現地では「上海世博会」）が半年に渡って行われており、せっかくなので今回の上海滞在中にとりあえず行ってみました。ちょうど上海滞在中の浅井さんも行きたい、ということで、二人で朝9時に、人民広場の地下鉄駅で待ち合わせ。
（同じく上海滞在中の濱口さんはすでに岡田さんと行ったそうです）



会場への一番簡単なアクセスである地下鉄13号線（中央下のピンク色の短い路線）は路線図で見ると水色の路線とつながっているように見えますが、乗り換えには改札を出てから世博のセキュリティチェックポイントを通り、世博会場に入場してから乗車となっていて、現状では完全に世博入場者限定の会場アクセス路線です。（乗車無料）
それを知らない私たちは13号線が地下鉄の自動券売機画面に出てこないの不思議に思っていたのですが、行ってみれば納得です。

セキュリティチェックはけっこう徹底しており、暑さ対策のために持ってきたペットボトルのお茶も飲み干すように言われ、結局捨ててしまいました。でも会場内には無料の給水所や、飲物・アイス等を市価より少しだけ高めで売る露店も多く出ており、水分補給の心配はありません。



入場券は前日、市内のコンビニで売っていたのを買っておいだったので、すぐ入場改札を通して地下鉄13号線へ。



2駅目の「世博大道」（終点）が会場のほぼ真ん中です。





地上に出るとすぐ前がタイ館でした。かなり長い入場待ちの行列ができていたので少し迷いましたが、タイは今年のフィールドワークではバンコクの騒乱のため訪問を見合わせた国だけに、リベンジとはかりに並ぶことに。



浅井さんが座っているのはプラスチック製の折りたたみ椅子。行列が進まなくなるとこれを使って休憩する人も大勢います。入場券購入の際、コンビニの定員に勧められてつい買ってしまった。



約1時間の待ち時間でやっと入場できましたが、結局この日入場できたパビリオンの中で一番面白かったのはここでした。（特に3D映像の雨の演出が気持ち良かった！）



最初がタイだったので、フィールドワークつながりで、行列の少ないカンボジア館、ネパール館を巡訪。カンボジア館はアンコールワットの南大門とタブロム寺院のガジュマルのレプリカがメインでした。





ネパール館はボーダナートの仏塔を再現。



フィールドワーク訪問国では近くに、マレーシア館、シンガポール館、インド館、台湾館、中国館が建っていたのですが、それぞれ長い行列ができていたので入場は断念し、行列の短い国のパビリオンを専ら回る作戦に変更しました。

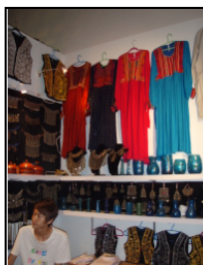
インド館と中国館の外観。中国館はすいぶん報道されたので御存じですね。



ヨルダン館。死海の成分の化粧品やサンドアート（ボトルに入れた砂絵）が目を引きました。



シリア館。丈夫そうな絨毯や民族衣装。



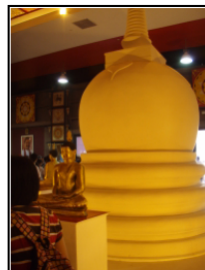
アフガニスタン館。館内がバザールのようです。



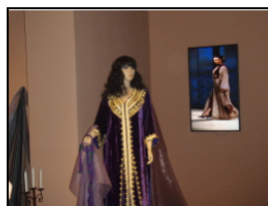
イエメン館。ここもバザール状態。ヘンディをやっている国もいくつかありました。



スリランカ館。館内にレストランがあったので、ここでカレーの量食をとり一服。

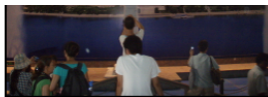


モロッコ館。建物はカサブランカ（白い家）。中は3階にわかって展示があり、エキゾチックな美女のマネキンが目立っていました。もちろん、映像や文化展示もなかなかでした。



北朝鮮館。万博初出展という北朝鮮。展示はシンプルながら、金家3代の肖像、切手やビンパッジなど、お土産が充実。





モルジブ館。海の観光国らしい展示です。



東ティモール館。インドネシアから割と最近、独立した国でしっけ？



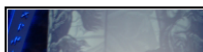
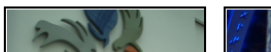
モンゴル館。いかつい男たちが民族楽器を演奏し、ゴビ砂漠の恐竜の化石を目玉にしているようです。



バングラデシュ館。ベンガル虎とワニとヘビ。ワイルドです。

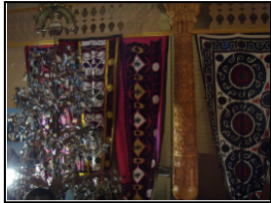


キルギス館。モンゴル族の文化的影響を感じる展示でした。

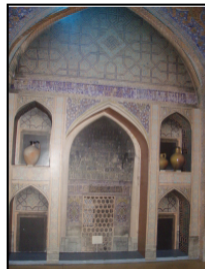




タジキスタン館。絨毯と観光名所らしい滝が目につきました。



ウズベキスタン館。青い外観と青いエントランスが綺麗です。



と、精力的に主にアジアの国々を歴訪。

そしてこのあたりから展示内容の見学よりもスタンプラリー状態に。たいていのバビリオンにスタンプを押してくれるコーナーがあり、見学している中国人の半分くらいがパスポート型のスタンプ帳に各国のスタンプを集めていたので、ついづられて私は万博マップに、浅井さんはメモ帳にスタンプをもらいまくりました。

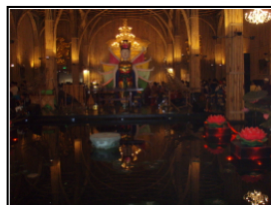


私の集めたスタンプの一部。↓





残るフィールドワーク訪問国、ベトナム館・韓国館は日本館と並んでいましたが、日韓はやはり行列のため入場をあきらめ、ベトナム館に入場。



結局FW10カ国のうち、訪問したのは4カ国のみとなりました。

一応、わが日本館と隣国・韓国館の建物だけ紹介。どちらもユニークな外観です。



このあと、会場内を走るバスで欧州区へ移動しドイツ館のレストランで休憩。朝10時に入場してからそろそろ7時間が経過しています。



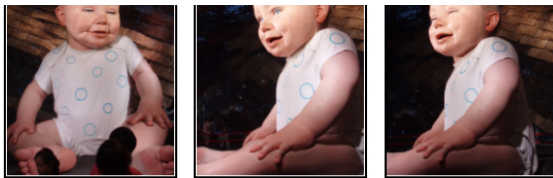
欧州区は人気パビリオンが多いので、どうしても行列にならぶことになります。結局、次の2カ国のみ入場。

スペイン館（1時間15分待ち）



スペイン館は最初の映像も迫力がありましたが、それよりもインパクトがあったのが、6.5mの巨大赤ちゃん「ミゲルくん」。表情が豊かで、少々不気味です。





イタリア館（30分待ち）



イタリアン・プロダクツやイタリアのライフスタイルを前面に打ち出して、おしゃれな展示でした。

見学は夜8時までにはしようと浅井さんと決めていたので、残り1時間はスタンプ館と国教を稼ぐ方針で非州（アフリカ）連合館に移動し、とりあえずタンザニア、モザンビーク、ブルンディ、ソマリア、ジブチ、エリトリア、スーダン、ルワンダ、ケニア、セネガル、ガボン、マダガスカルのブースを覗いたものの、全部は回りきれず。非州、国が多過ぎます。

このころはすでに撮影もどうでもよくなっており、国別に画像を貼るのが厳しいので、連合館中央にあった旗の群を代表で1枚。



この日はつごう10時間で31カ国を訪問したことになりますが、やはり待ち時間の長いパビリオンは展示も面白いようなので、日数をかけて行列に辛抱強く並ばないと、万博の本当の楽しさは味わえないのかもしれない。

とにかく、ハードな一日でした。

浅井さん、明日の出発が早いのに遅くまで付き合わせてコメン。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.29 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.28

Day 132, How to Order the Chinese Hot Pod, Shanghai, China

[Tweet](#)

[いいね！0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

今晚は上海滞在中の浅井さん・濱口さんと、定時連絡後に南京東路で待ち合わせ、中国での取材の様子を聞いたりしながら夕食です。メニューは浅井さんの希望で「火鍋」です。





日本で食べる火鍋はあらかじめセットされた食材が用意されますが、本場中国では違います。注文の仕方がよくわからないので、テーブルについて周りをうかがうと、どうやら食材の種類と単価が記載された票の食べたい食材の欄に数量を書きこんでレジに持っていき、先払いをするとテーブルに食材を持ってきてくれる、というシステムの様です。

台号	人数		
		蔬菜类	水产类
101()	份	1.00 元	604() 蟹肉棒
102()	份	0.50 元	606() 泥鳅
103()	份	1.00 元	615() 牛蛙
104()	份	2.00 元	616() 甲鱼
106()	份	1.50 元	626() 青鱼片
107()	份	2.00 元	627() 青鱼头
108()	份	2.00 元	629() 新鲜青鱼尾
109()	份	2.00 元	
110()	份	2.00 元	肉食类
111()	份	1.50 元	701() 包心贡丸
115()	份	1.00 元	702() 香菇贡丸
119()	份	1.00 元	703() 蛋丝贡丸
121()	份	1.50 元	704() 鱼丸
			705() 牛肉贡丸
			706() 山林大红肠
			707() 蛋饺
			708() 鸭肠
			709() 鸭心
			710() 鸭舌

でも火鍋初心者的我们オール漢字とはいえ、食材がどんなものか、また適量はどのくらいか、想像できません。しかもスープやタレも何種類もあり、それらから選ばないとならないのです。（あとから気づいたのですが、お手拭きや飲物（冷やしてない）用の氷まで、注文票に記入して買わないとなりません）

そこで隣のテーブルの中国人カップルに図々しくお願いし、注文票記入を丸投げする荒技を敢行。突然の依頼にビックリした小姐ですが、快く我々のために注文を考えてくれました。



そしてなんとか注文・支払いを終え、しばらくして届いた食材は、スープ・タレ・肉・野菜・練り物など、なんだかよくわからないものもありましたが、量も種類もちょうどよさそうです。隣の小姐、謝々！



実際、これらの食材を辛いスープとマイルドなスープに3種類のタレを駆使して食べる火鍋は、いろいろな味、食感を楽しめ、たいへん、美味しかったです。（←シルシ〇ミシル風の感想）



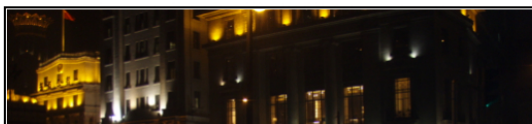


汗をかきながら食べまくる二人（もちろん私も）。
やはり中華は人数が多いほど、楽しめます。



これで飲物を含め85元（一人28元＝370円くらい）ですから、一昨日の南京の小吃の98元（飲物込）に較べると満足度がケタ違いです。これぞ中華、と思えた晩餐でした。

すっかり満腹した我々は食後、腹ごなしに南京東路を散歩し、外滩（バンド）へ行ってみました。上海でも一番人気の観光スポットだけに人で溢れています。特に上海万博開催中の今は混雑が凄いのでしょう。





あいにくバンドからの対岸の夜景はガスっていましたが、それでも綺麗です。



カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.28 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラッキング\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.27

Day 131, To Shanghai by CRH, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

南京で元気の岡田さんに会い安心した私は今日、学生二人（浅井さん・濱口さん）が滞在している上海へ、中国版新幹線「和諧号」で移動しました。

南京～上海間301キロを350キロの営業速度で、最短73分で結ぶという「和諧号」。
CRH=China Railways High-speed：中国铁路高速が正式名称みたいです。



現在、上海からは南京・蘇州・杭州などへ、また、北京から天津その他へ、広州から武漢へ、そしてもうすぐ成都から重慶へ、と路線を拡大しています。

南京駅はガラス張りの近代的な建物でした。





手荷物検査を受け、待合室（候車室）で待機です。



掲示板に出発直前だと「改札停止」、出発が近いと「改札中」、出発まで間があると「待合室待機」みたいな案内がでます。上海への路線は上海駅と上海虹桥駅へ15～30分くらいの間隔で運航している様子。

车次	终到站	开点	站台	状态
G7159	上海虹桥	13:38	12	停止检票
G7161	上海虹桥	13:47	18	正在检票
G7007	上海	14:00	11	正在检票
G7037	上海	14:36	9	在此候车

出発20分程前に自分の乗るG7007次の改札が始まり、プラットフォームへ。両側に列車が停車中。



車両タイプはさまざまで、カナダ型、ドイツ型、フランス型、日本型など、さまざまな高速鉄道車両を導入しているそうですが、こちらはドイツ型。





こっちは日本型。まんま新幹線ですね。私に乗る方はこちらです。

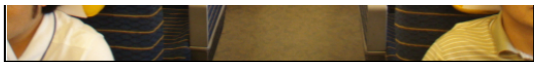


8両編成を2本併結し、16両での運用。



車両内部も硬座（普通車）・軟座（グリーン車）はそれぞれ日本の新幹線そのまま。





私が乗った列車は南京～上海をノンストップ75分で結び、発着時間も正確でした。飛行機に較べると全然楽です。
ちなみに岡田さんは上海～南京をバス移動していますが、所要時間は4時間だったそうです。

上海駅に到着した後は地下鉄に乗り換え、ホテルへ。



そして無事ホテルに着いたのは午後4時。南京のホテルを出てから3時間しかたっていない。

そのホテルは上海の銀座、「南京東路步行街」から徒歩10分弱。
ホテルのそばの道からは上海のシンボル、「東方明珠塔」も見えます。



南京東路の歩行者天国はすごい人波でした。オリンパスのネオンが燦然と輝き、吉○家の看板が道行く人を誘います。今夜の夕食は中国入りして初の日本食、これで決まりです。



カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.27 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.26

Day 130, A Day in Nanjing, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

今回、南京滞在は2泊の予定です。

本当は昨日の午後、南京に着いてからも街を回りたいかったのですが、あいにくのフライト遅延のため、到着が夜になり、結局10時半しか時間がなくなってしまいました。

したものの、結局は戦いに負けて、結局日本軍の手に落ちた。そんな限られた時間のなか、訪れたところを幾つか紹介します。

<中華門>

ここ南京は日中戦争当時、国民党率いる中華民国の首都だった都市ですが、そのため日本軍の侵攻に遭いました。南京の市街地は34キロの城壁に囲まれ、13の城門があるそうですが、南京城正門である中華門でも激しい攻防戦があったそうです。某ガイドブック（地球の×××方）には城門の上に立派な建物が建っている写真が載っていますが、実際の中華門にはそれらしい建物はみあたりませんでした。はて？ 建替え中？ それともだまされた？

（ガイドブックの中華門）



（実際の中華門）



<玄武門公園>

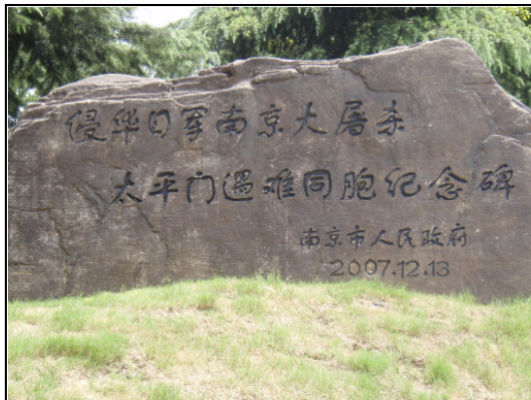
泊まったホテルのすぐ横の「玄武門」の先に湖がありました。地図だと小さく思えたので、湖畔を歩いたら思ったよりも全然大きく、さすが中国、と思いしらされます。



途中、湖畔に温泉を発見。しばらくの間、寄ってマッタリしたい誘惑と戦ったのち、時間がないので断念。



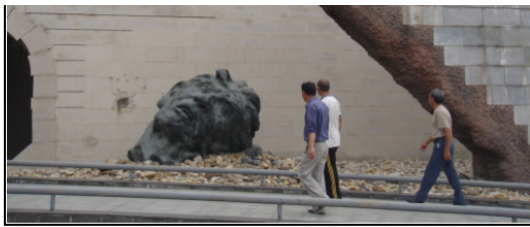
こんな石碑もありました。次に紹介する見学場所と関連する石碑です。



<侵华日军南京大屠杀遇难同胞纪念馆>

俗にいう「南京大虐殺」を後世に伝えるために建てられた記念館です。今回、南京で一番、訪れたかった場所です。





平日ながらたくさんさんの中国人が見学に訪れていました。



ここを訪れると日本人として厳肅な気持ちにならざるをえません。
以前、瀋陽で「九・一八歴史博物館」というところを見学したときも同じ気持ちになりました。

た。



合掌。

<明孝陵>

明朝の太祖、洪武帝の陵墓です。世界遺産「明・清朝の皇帝陵墓群」のひとつです。







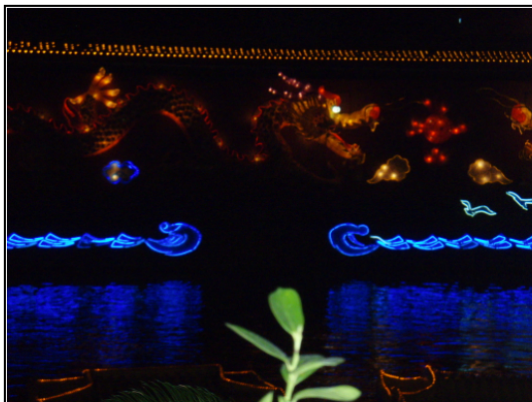
明孝陵は紫金山という山のふもとにあります。この山のもう少し高いところには中国革命の父、孫文の廟墓「中山陵」が作られています。そちらには行く時間がありませんでしたが、高い場所にあるということは孫文の方が洪武帝より格上、ってことなのではないでしょうか？

さらに明孝陵の近くには山の中なのになぜか「海底世界」という水族館もありました。なにもこんな山の中に水族館を作らなくても、とは思いますが。



<夫子廟>

南京の繁華街で、古い街並みに新しいショッピング街が混在する観光地です。





「老街」を「老いた通り」と訳すセンスはナイスです。

電話定時連絡後、南京取材中の岡田さんとこの夫子廟で待ち合わせて、街を散策しながら夕食を取りました。

「南京小吃」の店で23種の小吃セット78元というのを頼んでみたところ、出てきたのはこれだけ。



値段と品数からしてきっと食べきれないほどの量がでるものとワクワクしていたのに、期待はずれもいいところです。中国人なら店主に食ってかかりそうですが、日本人の我々はさすが退散。

(それでも、最初21品目しか出ていなかったで文句をいったら、お茶とヒマワリの種を持ってきました。はっきり言って、バカにされた気分です)
この後、他のレストランで焼そばやワンタンを食べて腹を満たしたのは言うまでもありません。

そうそう、南京という「玉すだれ」を思い起こす人も多いと思います。でも、夫子廟のお土産物屋さんでは、それらしいものは見かけませんでした。あればお土産にでも、思っていたので残念です。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.25

Day 129, Too far to go to Nanjing, China

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

今日、長逗留だった成都を離れ、引率は南京へ向かいます。

昆明経由で田舎へ向かう小林さんとともに朝7時、ホテルをチェックアウトし空港へ。昨夜来、雷と雨がひどく、今朝も雨が少し残っていて、フライトの運航状況が少し心配です。

空港でのチェックインは2人とも順調に済み、搭乗開始まで少し時間があるので朝ごはんを空港内のチキン屋さんで食べて時間調整。





その後、お互いが搭乗ゲートに向かうため、先に小林さんを見送り。気をつけて！



ところで、中国国内には経済発展とともにとてもたくさんの航空会社が林立しています。空港内にチケットカウンターがあった航空会社だけでも、中国国際航空、中国東方航空、中国南方航空といった日本に乗り入れている会社から、四川航空、上海航空、深圳航空、成都航空、海南航空、吉祥航空、奥凱航空、アモイ航空、北京首都航空、連合航空、翔鵬航空、成都精英航空、成都市中天航空、成都永興航空、四川省藍天航空、成都華龍航空、四川天馬旅遊航空、成都后明航空、四川省恒翔航空、成都佳馳航空、といったよく知らない会社まで、20社くらいありました。(ただ、これらの中には、航空券の予約・発券を行う、旅行会社的な会社もあるかもしれません)



広大な国土に十億を超える人民が住んでいるわけですから、国内航空の需要もどんどん伸び、それにつれてこのような状況になってきているのでしょう。それにしても空港の混雑ぶりとい、凄いものです。



さて、南京行きのフライトを搭乗ゲートで待っていると、搭乗予定時刻になってもコールはか

からず、代わりに「Delay」の表示が出てしまいました。カウンターには「機材のメカトラブルのため、南京行CA4505は出発が遅れます」的な内容の掲示も出されています。



ラサでの悪夢の4時間の再現となるのでしょうか？
少しドキドキしていたら、10時半ころ、機内食がゲートで配られ始めました。



ということはまだまだ時間がかかる・・・。
そろそろ菓子を煮やした中国人がカウンターの係員に文句をつけ始めています。
文句が効いたのか、12時過ぎに今度は弁当が追加。
ラサの遅延の時は何もありませんでしたが、それに較べればましな待遇です。（どちらも同じ中国国際航空での遅延なのですね）

そして予定より4時間遅れでやっと搭乗。やれやれと思ったのもつかの間、飛行機が動き出す
気配がありません。

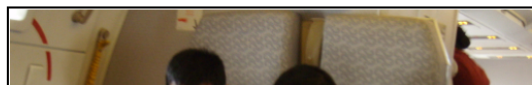
さらに機内で1時間経過・・・・・・・・・・。

ついに乗客の不満が爆発。機内で怒号が渦巻き、乗務員が必死になだめていますが、やがて乗客たちの一部が立ち上がり、もう降りる、と乗務員に詰め寄る事態に。



乗務員の必死の説得にも関わらず、怒り狂う乗客たちの圧力に結局航空会社が屈してドアが開けられ、乗客の半数くらいの激進派が機外に出てしまいました。ただじっと待ってばかりは居られない中国人パワー、恐るべしです。
（ただ、この間、まったくアナウンスではなく、状況が全然わからないので、乗客が怒りだす気持ちは少しわかります。それに較べて日本のJALは、なにかあって列車が止まったときなど、しつこいくらいアナウンスしますが、あれもどうかと思いますけどね）

機内に残った穏健派の乗客に耳の不自由な人がいて、乗務員と筆談をしていたので、そのやり取りを覗きみたところ、どうも管制塔の発着許可がまだ下りないようです。（おそらく霧と雨で空港全体の運航が遅延している影響だと思います。他の乗務員に英語で聞いたところ、10機くらい前に詰まっている、と言っていました。）





筆談では「今日中に南京に着くのか」の問いに「何時に出発できるか分からない」と答えていました。

やがて機内では礼束を握りしめた航空会社の地上職員が文句を言っている乗客にお金を配り始めました。どうも遅延に対するお詫びのようです。（でも、乗客からアピールしないともうえませんが。隣の客はもらってましたが、私には声もかけてもらえませんでした）

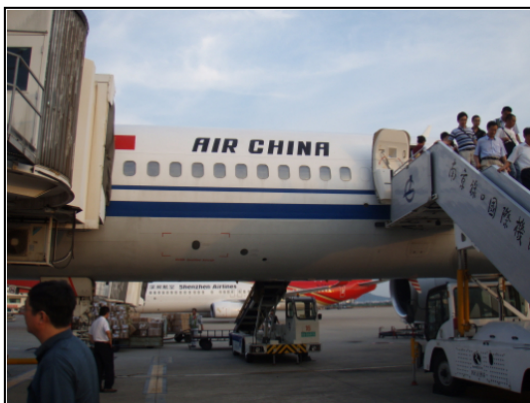
そして機内で待つこと2時間半。やっと飛行機はゲートを離れました。定刻の6時間遅れです。（機外に出ていた乗客も直前に戻ってきましたが、あちこちに空席ができていました。乗客の人数確認を乗務員が教えていましたが、人数はキチンと把握できたのでしょうか？）

そして飛行機は無事、南京空港に着陸。やれやれと思ったら、ダメ押しのトラブルが待っていました。ゲートに着いた飛行機のドアが30分近く開かず、降りられない……。乗務員に訊いたら、ボーディングブリッジが飛行機のドアの故障かは分かりませんが、通常の降り口である最前方のドアが使えないので、別のドアを開けるから、待ってくれ、とのこと。乗客はというと、さすがに南京に着いて嬉しいのか、少々降りるのに時間がかかっても、怒り出す人はいません。

そして別のドアが開くとそこにはタラップ車が横付けされていました。



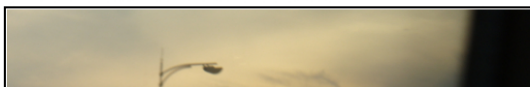
外にでると、ボーディングブリッジが架けられているのにタラップで降りて徒歩でターミナルに向かう乗客、というあまり見られない光景が。

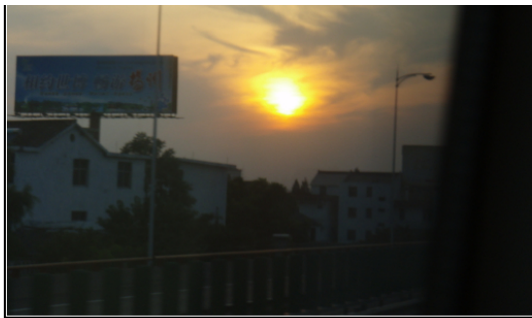


結局、フライトは都合6時間半ほど遅れたことになります。これ以上の遅れは過去にも経験したことがありますが、今回の遅れに対する乗客の反応や航空会社の対応はビックリすることばかりでした。

（なお、この日昆明に向かった小林さんの便は約5時間遅れたそうです）

そして空港バスで市内に向かう道中はすっかり夕暮れ。





市内のホテルにたどりついた時は夜景が綺麗でした。



2年前の北京一泊事件、6日前のラサでの遅延、そして今回と、すべて中国国際航空。よほど私との相性が悪いのでしょうか。

まいった、まいった。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.25 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.24

Day 128, Panda Center, Chengdu, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

今朝は、成都に連泊していた野尻くんが次の取材地・北京へと出発です。

フロントで預けていたデポジットを精算し、呼んでもらったタクシーで空港へ向かいました。





そして私は成都では三国志関係と並ぶ人気の観光スポット、「成都大熊猫繁育研究基地」へと出かけた見ました。仰々しい名前ですが、要するにパンダ専門の動物園です。
 (FW 1 期生の山口ゆまさんが通い詰めたところです)
 この動物園はホテルそばのバス停から路線バスの 902 番を利用し 1 時間弱の郊外にあります。



広い園内に点在する屋外コテージと室内ゲージをパンダを探して回っていきます。



まず、涼しい室内ケージで思い思いに過ごすパンダたちを発見。



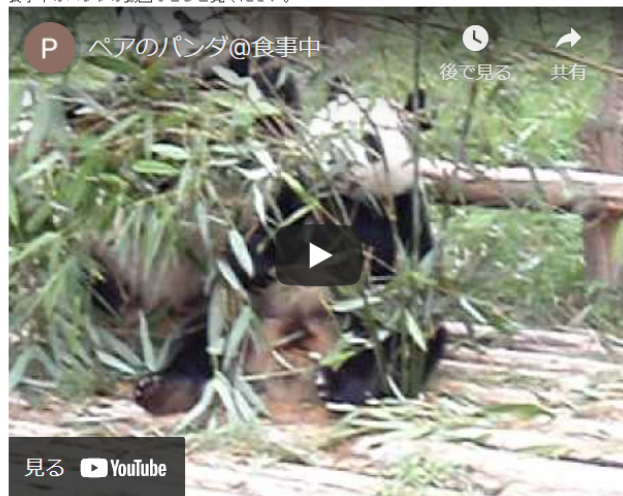
つづいて、屋外でへばっているおやじパンダに遭遇。（昔の漫画「らま1/2」の、水をかけるとパンダに変身する空手家オヤジを思い出してしまいました）



二頭で仲良く食事中的のパンダは今日の一番人気でした。

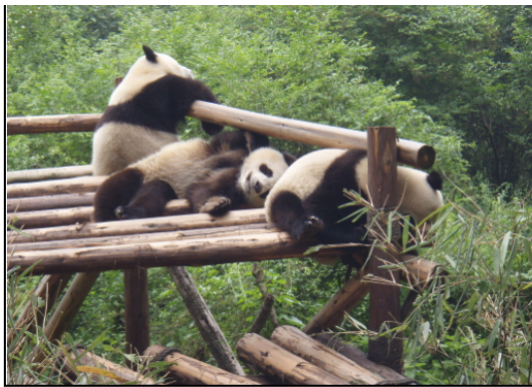


食事中的のパンダの動画もぜひご覧ください。



あまりの暑さに身動きもせず雑魚寝するナマケモノなパンダたち。





なかにはなぜか木の股に挟まって寝ているツワモノなパンダも。



ということで、すっかりパンダに癒されました。パンダセンター、お薦めです。

そして夜は3日ぶりに取材先から帰還した小林さんと、四川料理の夕食へ。またも文殊坊界限で、今度は違うレストランで二菜一湯です。一昨日の経験を生かし、辛い(不辣: プーラー)メニューを店の小姐に確認しながら注文。
熱い・辛いがダメな小林さんでも満足のおかずで、ほとんど完食しました。



やはり人間、学習することが大切です。

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.24 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

カテゴリ:

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.23

Day 127, Wenshubo, Chengdu, China

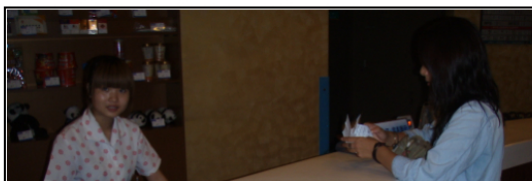
[Tweet](#)

[いいね!](#) 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

朝7時過ぎ、谷本さんがホテルをチェックアウトし空港へ。
フロントでデポジットの返金を受け、空港までのタクシー代の相場を確認し、フロントで呼んでもらったタクシーに乗り込んでいきました。





さすが、4か月以上旅を続けてきただけに、一連の流れがスムーズです。
お見事！

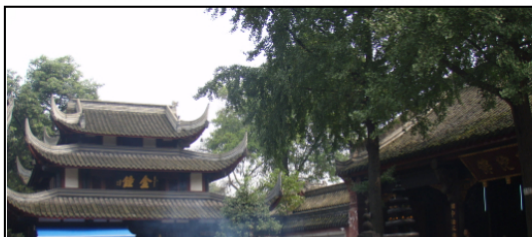
さて、私は今日、ホテルから歩いてすぐのところにある「文殊坊」という昔の街並みを再現した観光地をぶらついてみました。昨夜の「三菜一湯」もこの一画にあります。



例の麻婆豆腐屋さんの支店も出てました。



文殊坊の譚われとなった古刹、「文殊院」はたくさんの観光客で賑わっています。





レトロな街並み日本人が思い描く中国そのままのイメージ。
昨日まで見ていた、都会の成都とはずいぶん違います。



東洋情緒あふれるこの街は欧米人観光客にも人気のようです。



かと思えば地元の子供が史跡で携帯を使って遊んでたりします。





温故知新。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.23 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.22

Day 126, 3 Dish & 1 Soup, Chengdu, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

成都滞在4日目。

今日の時点で同宿の学生が二人いますが、明日、そのうちの一人の谷本さんが山西省へ向かい、広州の指定泊まで他のメンバーと会わない予定なので、もう一人の学生・野尻さんと三人で送別の晩餐に出かけました。

キッチンとした中華が食べたい、という谷本さんの希望に沿って、ホテル近くのそれらしい店に適当に入店。その名も「三菜一湯」。おかず三品・スープ一品、くらの意味でしょうか。三人の食事にはちょうどよさそうです。



ただ、斎藤さんをねぎらう会で行った麻婆豆腐で、学生のほとんどが辛いのは苦手とわかっていますので、メニュー選びも慎重にしました。といっても、メニューの漢字の字面で辛そうじゃないものを都合4品、勘で選んだのですが、やはり、ここは四川。

出てきたものは、ちょっと辛い揚げ豆腐系と、けっこう辛い茄子系、そして激辛の唐辛子そのままのおかず3品。飲物で出されたお茶は、少し癖のある中国茶（店の小姐に訊いたら「紅白茶」と書いて教えてくれました）で、箸を進めるために頼りになったのは、白飯とさっぱり系の菜っぱのスープ。





それでも次第に無口になる三人・・・。
本場の四川料理、手ごわいです。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.22 | [バーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.21

Day 125, Traffic in Chengdu, China

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

ここ成都は四川省の省都であり、内陸に位置しながらも沿岸の都市に負けないくらいの発展を続けています。

街の中心、天府広場の周辺。



あちこちに立派なビルが林立しています。

欧米のブランドショップも目抜き通りに出店ラッシュでした。

しかしながら街の発展に比べ、公共交通は路線バスとタクシー、そして自家用車・自家用バイクに頼っているため、朝夕の通勤時間帯はバスはすし詰めで、タクシーはなかなかつかまりません。





バスの中ドアは本来、降車専用なのですが、乗車口の前ドアが混み合っていると、中ドアから乗車する人もできます。運賃は運転席横の料金箱に投入するか、ICカードリーダーに交通カードを読み取らせるか、で精算するのですが、中ドアから乗った人は通路の乗客にお金やICカードを手渡しリレーしてもらい精算しています。バスの乗る時は我先で、割り込み当たり前ですが、乗ってからのこうしたマナーもまた、中国人らしい一面です。



また、バイクは価格が安い電動バイクが多くなってきており、台数が多いうえに、ほとんど無音で、時に交通法規を無視して走っているの、気付かないとぶつかりそうです。(夜でもバッテリーの節約のためか、ライトを点灯しないで走ってくるので、かなり危ない)

そんな中、今年秋には成都にも地下鉄が開通するそうで、工事中の地下鉄駅入口がそこかしこに見受けられました。



来年、この街を訪れるであろうFW6期生たちはきっと、街のちょっとした移動にこの地下鉄を使うことでしょう。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.21 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.20

Day 124, Hotel at Chengdu, China

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

ラサから成都に戻り、3人の学生とともに学生が予約したビジネスホテルチェーンに宿泊しています。(学生は1〜5泊、私は6連泊)





このホテルチェーン、部屋に置いてあったパンフレットによると、中国の都市部を中心に現在443店、そして開業予定が342店あるようです。



室内はまあまあ広く、シャワーとトイレ・洗面台、ダブルベッドに丸テーブルと椅子、けっこう広いTV台などが配置されていて、エアコンや湯沸かしポットもちゃんと付いています。そして室内にLANケーブルもあるので、インターネットが使えるので非常に便利。

これで1泊169元（2300円ほど）です。
もちろん、都市によって部屋の作りや料金はまちまちでしょうが、ここ成都では非常に快適に過ごしています。
ネットで簡単に予約もできるし、5年半前の中国下見の際の宿泊事情を思出だと、隔世の感がありますが、このホテルチェーン、設立は1997年だそうです。知らなかったただけなんです。中国には他にも速8酒店チェーン、7天連鎖酒店チェーン、漢庭快捷酒店チェーンなど、ビジネスホテルチェーンがあり、これらは今後も使う機会が多くなりそうです。
（なにやらホテルの宣伝みたいになりましたが、だからといってホテル代が安くなったとか、そんなことは一切ありません）

なお、中国のホテルはたいてい宿泊料の他にデポジットを取ります。今回は最初4泊で予約したので、チェックイン時169元×4泊分+アルファで900元を預けました。クレジットカードを使えない場合もあるので、到着時にある程度の現金を持っていないと慌ててATMへ歩くことになりますので、お気をつけください。

锦江之星旅馆 JinJiang INN (成都文殊坊店)		预付金凭证 DEPOSIT RECEIPT		No.: 06	
入住客姓名: YONEI SATO Guest Name	房号: 8106 Room No	退房日期: 2010-07-23 Check out date	打印日期: Check in date:		
指定退款人姓名: YONEI SATO Designated Payee		房型 单人房A Room Type	房价 169 Room Rate		
支付方式: 补现金 Payment for Deposit/Authorization 存款金额(大写) 玖佰元整 Deposit paid	RMB: 900.00	客人签名: Guest Signature			
备注: [189元]间, 总价189元 [MS0476387] Description 接待人签名: 杨文超 Clerk Signature:	单位盖章 Company Official Seal				
注: 1、此单系预付金凭证, 请妥善保管, 但不作报销依据, 结账时请出示, 多退少补。 For deposit receipt only. While checking out, please show it to the cashier to get the refund.					

預けたデポジットに対してはちゃんとこのような預かり証をくれるので、チェックアウトの際はこれを渡してきちんと余りを返金してもらうのを忘れずに。





ホテルの近くには大きなスーパーがあって、生活雑貨はもちろん、飲物やパン、果物などの購入ができ便利です。四川料理の本場だけあって、陳列棚には豆板醤がたくさん。



そしてパンコーナーには変わった名前のパンが。ちょっと怖くて買えませんでした・・・。



ちなみにレジ袋は有料です。



あと、このスーパーには旅行社が入っていたので、今後の中国国内移動の航空券を手配してもらいました。中国国内線の予約はほとんどオンライン化されているようで、インターネットでの予約でもこうした旅行会社の店頭でも割引運賃を含めてほとんど同じ値段で航空券を購入できるみたいです。

(カード決済の場合の手数料や、チケットの配達料などが別にかかる場合あり)



そして、チケットはどこでもこんな用紙にプリントされます。ただ、Eチケット化がすすんでいるので、チェックイン時に予約の際に使ったIDカードがあればチケット不要、という場合がほとんどです。



ホテルのそばの飯屋。炒飯や面が5〜6元（70〜80円くらい）で食べれます。スーパーのそばにアメリカ発のハンバーガー屋さんもありますが、こちらはセットで22元（300円くらい）からです。



ホテルのそばの大通りを挟んだ向かいにはデパートがあり、こちらにはアメリカ発のチキン屋さんが入っていました。

ラサに行く前の指定泊ホテル周辺といい、今回のホテルといい、お店の質・量ともに成都はもう日本の大きめの地方都市とほとんど変わらないな、という印象が強くなりました。（コンビニがまだまだ少ないですが）
中国の発展は凄いです。

と、私がホテル周辺をうろろしている頃、成都から次の目的地（「瀘州」という成都から陸路数時間の地方都市）に移動するための方法を探っていた小林さんが無事チケットを手配し、午後遅めにホテルを出発。



鉄路がないため当初タクシー移動を考えていましたが、あちこちに聞き込みをかけた結果、成都のはずれのバスターミナルから直行バスがあることが判明し、そこまで行って大きい荷物を持つての移動に支障がないか、を確認のうえチケットを買ったそうです。





そのバスターミナルまではタクシー利用。いってらっしゃい。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.20 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.19

Day 123, Go to the East from Lhasa, China

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

4泊に渡るラサ滞りも終了し、今日は下界のそれぞれの目的地に飛行機移動です。広大な中国にこれから学生たちは旅立っていくわけですが、概ね、現在地のチベット（西藏）からは東側のエリアに向かうことになります。

ガイドの羅さんともお別れです。5日間、病院やら観光やら、ありがとうございました。（よく考えると、海外フィールドワークでこれだけの期間、ガイドさんが付くのはこのチベット訪問時だけです）



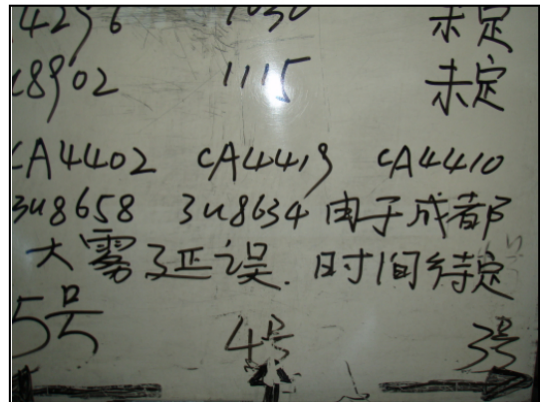
利用便の時間に合わせ午前7時ホテル出発組と午後1時出発組に分かれてラサ空港へと移動。

ラサ空港のチェックイン・カウンター。
利用航空会社にかかわらず、どのカウンターでも搭乗手続きができるようです。こんな空港初めてです。（5年半前に使ったときはこうではなかったと思うのですが）



搭乗ゲートも搭乗直前まで確定しないそうで、待合室エリアにある手書きのインフォメーションで確認となります。広い空港ではありませんが、他の空港とは少し勝手が違います。(たぶん高地の空港で定時運行が難しいので、到着便を順番にその時空いているゲートに入れるためではないでしょうか?)

そしてとりあえず成都に戻る学生5人+私に試練が。



利用便(CA4402)の遅延です。どうやら成都の空港が霧がなにかで航空ダイヤが乱れているようで、利用機材のラサ到着が遅れているようです。

いつ飛行機が飛ぶかも判らない我々を尻目に、本来なら我々より1時間半遅いフライトの遠藤くんの便が笑顔で先に出発。
う〜ん、羨ましい・・・。



定刻から遅れること約3時間が経過・・・。待ちくたびた女子2人。



結局、フライトは予定より約4時間遅れで出発となりました。
このため、成都で北京行きのフライトに乗り換えるはずだった学生は北京到着が遅くなるのを避けるため、成都宿泊日に急遽変更。
中国の移動では、時間に余裕を持つことが大切と、身に沁みた1日でした。
あ〜、疲れた。

P.S. 午後組のフライトも1時間ほど出発が遅れたそうです。やれやれ。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.19 | [バナーリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.18

Day 122, Tibet Blue, Lhasa, Tibet, China

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ・佐藤です。

明日がラサを出発する日なので、今日が実質的なチベット最終日。
それぞれが思い思いに1日を過ごしています。
チャーターしてある車で郊外に撮影にいく学生、買物に行く学生、身体を休める学生などさまざま。
（な、はずです）

私はというと、昼過ぎまでP C Iに向かったあと、街歩きに出ました。



ホテルのそばにはイスラム・モスク（清真寺）があり、イスラム教徒（回族）が多くいます。



突き抜けるような青空の下、バルコルは相変わらずの人出です。





ジョカン前で五体投地を行う敬虔なチベット仏教徒たち。



おっと、マニ車を回す俄かチベット仏教徒を発見。よく見ればラサ到着日の病院通いベア。4日間のうちにすっかりチベットに馴染んだようです。



ポタラ宮前では中国人の新婚さんが記念撮影していました。日射しが眩しすぎてサングラス着用です。





ポタラ宮の裏手の通りには延々とマニ車が並んでいます。
チベットの平和と学生たちの安全、そしてなにより自分自身の健康、といった大乗・小乗チャ
ンボンな祈願をしながら、端から順にマニ車を回してみましたが、おそらく１０００個くらい
あるので、回し続けるうちに肩が痛くなりました。

そして午後７時半。
空は依然として青く明るいのに、道行く人は町並みの影に沈み始めました。



カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.18 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.17

Day 121, The Highest Place in My Life, Mt.Gangbala , Tibet, China

[Tweet](#)

いいね！ 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

チベット３日目は富士山頂なみの標高のラサ市内から、更なる高みへ向かうべく、全員で郊外へ出かけました。目的地のヤムトク湖まで片道１６０キロほどだそうです。
ヤムトク湖を見下ろすカンバラ峠付近が我々の人生におけるとりあえずの最高所到達点になるはずです。

午前９時、ホテルを出発。
ラサ市内を出ていばし空港方向へ行く途中、まずチベットで一番大きいという磨崖仏を見学。
彩色された仏さまは高さ約９メートルだそうです。



せっかくなので入口の露店でMYマニ車も購入。
(回し過ぎて翌日には回すための鍵をつなぐ鎖が切れてしまいました・・・)





さらに車は進み、次の見学先はかつての水葬場。



遺体を投げ入れた崖を覗き込むと、川面まで10メートルほどあり、かなりの急流です。落ちたらかなりヤバそうです。



なんでもチベットでは葬儀の種類がいくつかあるそうで、ダライ・ラマ、パンチョン・ラマは塔葬でミイラにされて聖廟に祀られ、お坊さんは火葬で焼かれ舍利を祀られ、普通の人は鳥葬で秃鷲に食べられ、病気で死んだり悪いことをした人は土葬で埋められ、お金のない人は水葬で河に流されるそうです。もっとも水葬は最近では環境保護のため行われないそうですが、かつては子供はそのまま包んで流し、大人は五体をバラしてそれぞれ包んで流したそうです……。

そして車はつづら折りの山道に入り、徐々に標高をあげて行きます。
ときおり流れる霧（雲？）の中を抜け、カンパラ峠を越えるとそこには山に囲まれた細長い湖が！



ヤムトク湖です。チベットの三大聖湖のひとつだそうです。
カンバラ峠から湖にかけては有料の風景区となっており、入場料は40元。
風が冷たいのは標高のせいでしょう。



椿くんが指差している石碑は眼下に見えるヤムトク湖の湖面海拔で4441メートル。「キナバル山(4095.2メートル)を制した男」椿君も高所到達記録を更新。しかもほとんど車まかせです。



浅井さんが指差す石碑は今いるカンバラ山の登山口？の標高で4978メートル。
ということはこの広場の横の丘（カンバラ山頂？）を登ればもしかしたら5000メートルを
越えられるのでは？ とばかりに少し登ってみました。





これくらい登れば30メートルは稼いだことでしょう。（画像の大型バスの少し先が浅井さんが指差していた石碑のある場所です）
ということで自分勝手かつ未公認ながら5000メートル達成！ということにさせていただきます。

しかし、今回私について標高を稼いだのは写真を見るとどうも「酸素不足の女」岡田さんのようです。前日は体調次第では郊外行きはパスしますと言ってましたが、まさかの5000メートル弱到達とは。女は強い。

達成感を胸に車で湖畔に降り、このあたりで一軒しかないレストランで中華料理の昼食。（建物自体、湖畔の見える範囲でここしかありませんが）



そして湖畔で小休止。



湖畔にも何やら説明の碑がありましたので、「4978メートルの男」椿くんを入れて撮影。





撮影した画像を帰ってからよく見るとヤムトク湖は4440メートルちょっと、カンバラ山頂は4790メートル（下の英語部分では4700メートル）とあります。どうも標高が統一されていないようです。そこでさらに風景区の入場券を見ると「ヤムトク湖4441メートル、カンバラ山4990メートル」とあります。ということは多めに見積もっても私は4980メートルくらいまでしか行っていないのでしょう。

5000メートル越えはどうか勘違いのようでちょっとガッカリしましたが、いつかは素人でも準備次第で登れるというアフリカ大陸最高峰・キリマンジェロ（標高5895メートル）を制覇し、記録を更新かつ公認してもらいたいものです。その際はケニア・ナイロビ大学冒険部OBのI先生、いろいろとご教示ください。

さて、午後の帰り道、途中チベット族の家庭訪問、というのも可能たそうですが、高高度のためみんな疲れており、パスすることに。（ちなみに家庭訪問ではバター茶やツァンパをご馳走になったり、民族衣装を着たりできるそうです。一人50円程度の謝礼が必要とのこと）

そしてラサのホテルに戻ったのは夕方4時40分頃。

中国西部のこらサはこの時期、朝7時に明るく、夜9時に暗くなります。日中はかなり日差しが強いので、バルコル周辺が本当ににぎわってくるのは夕方4時過ぎから、といった感じです。



学生たちもやっと高地に慣れてきたようですが、明日がラサ滞在最終日。1日自由行動です。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.17 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.16

Day 120, More Oxygen ! Lhasa, Tibet, China

[Tweet](#)

[いいね！0](#)

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

チベット2日目は午後からラサ市内にある世界遺産3か所全部の見学に行きました。

<ポタラ宮>





チベットを象徴する建物でダライ・ラマの冬の宮殿です。観光シーズンは入場予約が必要で、団体は前日夕方に入場時間の連絡が来ます。その結果、我々は2時入場で1時間以内に見学をしなければなりません。

入場時間は建物上部の「白宮」「紅宮」の内部に入る時間で、入ってから1時間以内にそこを出ることになります。白宮紅宮がある宮殿上部までは、上り30分、下り20分程度必要となります。ガイドさんによると、上りは322段の階段だそうです。富士山頂なみの高度ですから、酸素が足りず息苦しい……。若い学生たちとはいえ、なかなか足が上がりません。



しかもポタラ宮の下の入場口では航空機と同一ような荷物検査とボディチェックがあるため、ペットボトルの飲み物やライターなどは持ち込めず、水を売っている建物上部の広場までしかけっこうツライです。

休み休み、それでもなんとか白宮前の広場（中庭）まで到着。



ここから白宮紅宮に入りますが、残念ながら内部は撮影禁止ですので、画像はありません。。

内部には歴代ダライ・ラマの霊廟や仏像、立体曼陀羅などが納められた999の部屋があるそうですが、霊廟には何トンもの純金を使っているそうです。ヒェ〜。



さて、ポタラ宮の見学を終え、無事下山（？）したあと、正面向かいの広場からポタラ宮全景を撮影することにしましたが、この5月に横断歩道に代わる地下道ができたため広場が柵で囲われ、バスで乗り付けることができず、結局ポタラ宮裏手から広場を回って写真を撮り、ポタラ宮斜め前の駐車場にいたバスまで戻るのに30分ほど歩くはめになりました。日射しは強いし、酸素薄い、なので、学生たちも普段なら何でもない30分がかなりキツそう。。。。



それでも容赦なく記念に集合写真を撮る私は、自分が案外高地に強いことを知りました。（なぜか前回のラサ訪問の際よりも身体が軽かった）



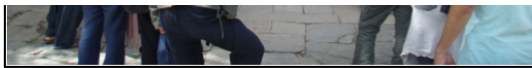


<ノル布林カ>



ダライ・ラマの夏の宮殿です。木立が多い公園のような広い敷地に宮殿などが散在しています。
入口で荷物検査がポタラ宮同様でしたがこちらは水の持ち込みはOKです。





ノルブリンカ内は緑が多いので涼しく感じました。これなら特に日射しの強い拉萨の夏（ただし日中のみ。夕暮れ以降は肌寒い）も快適でしょう。

<大昭寺（ジョカン）>



ガイドさんによるとチベット仏教徒が巡礼で目指すのはポタラ宮ではなく、このジョカンだそうです。

午前中は巡礼者の参拝時間で、観光客が入れるのは午後。荷物検査などはありませんが、内部の一部（奥の本殿など）はやはり撮影禁止です。



そしてジョカンを囲むように「バルコル」（八角街）と呼ばれる周回路があり、そこでは仏具や衣類その他を売る店が並び、人々は概ね右回り（時計回り）でその道を歩いています。



MYマニ車を回す時も当然上から見て時計回りですので、みなさんがチベットに行かれる際は間違えないようにご注意ください。

さて、拉萨市内の世界遺産をすべて制覇した我々は、そのあと、夕食にヤクステーキやヤクシチュー、モモ、バター茶など、チベットならではのメニューを楽しみました。まあ、中にはスパゲッティを食べている学生もいましたが。

（今回、なぜかいつも食事の最中の画像を撮るのを忘れてしまいます。すいませんが、メニューはみなさんと想像してください。）

明日はもっと酸素が薄い郊外の高地へ出かけます。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.16 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

10.07.15

Day 119, Fly back to Lhasa, Tibet, China

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

引率スタッフ・佐藤です。

今日から4泊はチベット自治区・ラサでの滞在となります。

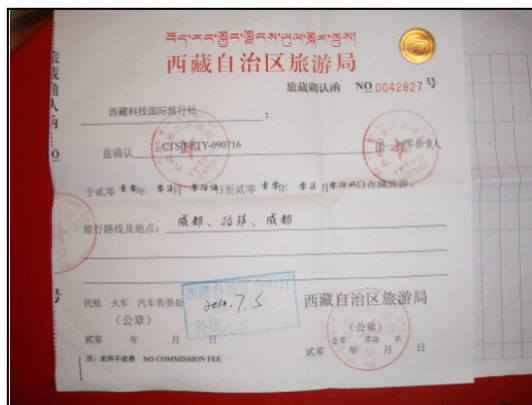
このブログの熱心な読者の方の中には、Day 117に「カトマンズからラサを経由して成都に到着」と書いてあるのに、なぜラサで降りずに成都まで出てからまたラサに戻るのか、疑問をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。

実はカトマンズからラサに直接入境するためには、個人ビザは不可で、団体ビザをカトマンズで取得する必要があり、その手続きが煩雑であることと、ラサ以降学生がバラバラに中国各地取材するのに団体ビザでは支障がある、ということが、いったん成都まで出る主な要因としてあります。

団体ビザは基本的に全員同じ行程で中国を移動する必要があるうえ、各自のパスポートには入国スタンプも押されないで、昨今厳しくなった宿泊ホテルでのチェックイン時のパスポートチェック（ビザや入国スタンプなどの確認・登録）の際に説明が難しい、という問題も出てきました。

そこで昨年から個人ビザを取得（昨年はカトマンズで。今年は日本出発前に日本で）することとし、個人ビザを使ってのチベット入境は中国側からアプローチしなければならないので、その結果、成都～ラサを一往復余計にする形になったわけです。この変更に伴い、ラサ訪問については希望者のみ参加のオプション扱いとしましたが、やはりなかなか行けない所なので、昨年・今年ともに全員参加となりました。

ちなみにチベット自治区訪問には、団体ビザ利用であれ個人ビザ利用であれ、現地の旅遊局が発行する入境許可証が必要で、この許可証を取るためにはチベット自治区滞在中の全日程に宿、車、ガイドを手配して観光することが条件となっています。



これが入境許可証。旅行団の人数、チベット滞在期間、経路（今回は成都、拉薩、成都）、などが記入されていて、別紙で団員11名のリストが付いています。

5年半前、海外フィールドワークの国ごとの下見でラサを訪問した時は入境許可証を取る必要はありましたが、車やガイドの手配は必須ではなく、また成都の空港で入境許可証のチェックなどはありませんでした。ところが今回、成都の空港で手荷物検査の前にラサ行き便への搭乗者はラインが分かれていて許可証とパスポートのチェックがありました。また、ラサ空港到着後、ラサ市内への移動の途中にもチェックポイントがあり、そこでも許可証とパスポートのチェックがありました。

余談が長くなりましたが、ここからはラサへ向かう成都空港での様子を少々。

四川省といえばパンダ。



彼等が自分たちの使命をしっかりと受け継ぎ、世界を平和に導くことは、日本や中国の未来のためである。そして、降りる階段前で別れの撮影会をする学生たち。



今年引率デビューした教務課・富田のときもそうでしたが、年齢が近いことと普段の学生生活でも接点が多いことから、学生もより親しみやすかったものと思います。

斎藤さん、2か月間お疲れさまでした。次は2か月後、韓国・釜山に最後の出迎え、よろしくお願いします。

そしてラサへ。



2時間ほど飛べばそこはチベット高原。ラサ空港からラサ市内までは一般国道（片側1車線）しかなく、70キロほどの距離に1時間15分～1時間半ほどかかります。



宿泊ホテルはラサリ市街の清真寺（イスラムモスク）に近い場所にあり、チベット仏教徒の聖地、大昭寺（ジョカン）まで徒歩10分ほどの位置です。



チェックインを済ませ、学生の体調を確認すると、軽い高山病と思われる学生と腹痛の学生が一名づつ。そこで大事を取って、ガイドさんに連れられて市内の病院へ行くことにしました。



ラサリにあっては高山病の予防薬ダイヤモンドックスをあらかじめ処方してもらい昨日から服用を始めていますが、やはりもともと血中酸素飽和度が低いので注意するよう言われていた学生に手のしびれなどの症状がでたようです。



医師から高山病に効くという人參系漢方薬を処方してもらい、ホテルに戻りました。（もう一名はネパール以来の体調不良での腹痛ということで、胃薬を処方してもらいました）

今日の午後と明日午前は高地順化のため、休養とし、本格的なラサ観光は明日午後からとなります。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.15 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.14

Day 118, Rest at Chengdu, China

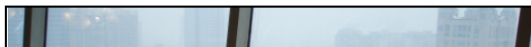
[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ佐藤です。

中国2日目はホテル最上階（30階）の「成都唯一」という触れ込みの回転レストランで朝食後、1時間ほどのブリーフィングを実施。





その後は広い中国大陆の取材開始前に飛行機など移動手段や滞在予定地での宿を確保すべく、ネットやホテル内の旅行社などでの手配や、溜った疲れを癒すべく休養に時間を取ることになりました。



実際、インドでのストレスやネパールでの作品展実施の激務のためか、風邪気味・下痢気味といった学生が数名いたのですが、その中の一人から翌日からの高地・ラサ滞在に備え、医者に行っておきたい、と申し出がありました。ここまでの4ヶ月間、医者にかかっていない学生ですが、昨日空港で出迎えてくれたガイドさんから「体調が悪いと高山病になりやすい」と言われ、一応医者に診てもらおうという気になったようです。

さっそく学生全員が加入しているエース保険の中国コールセンターに電話し、日本語通訳のいる外国人向けクリニックに連絡をとってもらって、そこまで出向きました。思った以上に洗練されたクリニックでの診察の結果、とりあえず体調回復のため点滴することになりましたが、これで少し具合もよくなったようです。



海外で医者のかかわるのは誰もが嫌だと思いますが、FW5期生はここまでの4カ月で医者にかかった学生が例年よりも少なく、少々体調不良は休養で自然回復を待つ場合が多かったようです。時には医者に行く勇気も大事だよ。(身内ネタになりますが、自戒の意味も含んでいます)

そして夜は明日日本に帰国する、ここまで2カ月引率してきた斎藤をねぎらうべく、老舗の麻婆豆腐店で全員で夕食。
(あまりの痺れる辛さで店内での写真撮影をすっかり忘れてました。)



明日はチベット自治区・ラサリに向かうべく、ホテルを朝5時半に出発です。

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.14 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラフィック \(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.12

Day 117, the 9th Country, Chengdu, China.

[Tweet](#)

いいね! 0

[チェック](#)

引率スタッフ・佐藤です。

3か月半振りの引率は台湾に続き中国本土。そういえば5年半前、海外フィールドワークの訪問国下見でも私は中国担当でした。中国語も録に話せないながら、なぜか中国に縁がありますが、これからの約1カ月、学生に負けないうブログアップに励みたいと思いますのでよろしくお願いします。

さて、ネパール・カトマンズからここ中国・成都へのフライトで到着する学生たちとここまでの引率・斎藤を出迎えるため、成都双流空港国際線到着ロビーで待つことしばし。(加徳満都からのCA408便は定刻より1時間ほど、遅れてました)

迎接旅客引导				
航班号	计划	出发/经停站	预计	状态
FM422	15:35	东京	17:05	到达
J56205	16:25	香港	17:55	前方到
CA408	16:50	加徳満都	17:50	前方到
CZ2466	18:00	吉隆坡	18:00	前方到
MU6582	20:00	温哥华	19:55	
CZ2488	20:15	雅加达	19:50	
CA406	21:20	名古屋	21:25	
CA6504	21:30	香港		
CA418	22:05	台北桃园		
KA142	22:15	香港		
OZ323	23:10	首尔		
MU658	23:55	洛杉矶		

便到着後しばらくして同便からの到着客が続々と到着ロビーに姿を現してきますが、やがてそれも途絶え・・・・・・、学生たちが出て来ない!
慌てて標続きの国内線到着ロビーに探しに行くと学生たちに巡り合え、ホッと一息。





実はカトマンズからのフライトは途中、中国のチベット自治区・ラサを経由するので、ラサから国内線扱いの旅客も搭乗できるのですが、成都空港到着時、カトマンズからの国際線利用者とラサからの国内線利用者では、税関の手続き上、機内預け荷物を受け取るエリアが分けられています。

ところが国際線旅客である学生たちはなぜか国内線利用客の荷物受取エリアに誘導されてしまい、当然のことながら荷物が出てこないで、係員に連れられて国際線到着エリアへと移動してくる途中、私と遭遇したわけです。

こうした細かいハプニングは海外フィールドワーク中、けっこう起きているのか、ちょっと焦った私ほど学生たちは動じることもなく、荷物を受け取り、いつも通り到着記念の集合写真を撮った後、成都中心部の指定泊ホテルへ貸切バスで移動。



指定泊ホテルの蜀都大廈賓館は近くにデパートも並ぶ繁華街なので、チェックインのあとは早速夕食の買い出しです。





デパート街には日本でもなじみのチキン屋さん、ハンバーガー屋さん、ピザ屋さんなどもありましたが、学生たちの一番人気はハンバーガー屋さん。



なんでもネパールにはチキン屋さんはあっても、このハンバーガー屋さんはまだ出店してあらず、その前の滞在国インドにはあったけどローカル仕様（ようするにほとんどカレー味）のハンバーガーばかりだったそうで、ここ成都でやっと日本で食べれるような普通のハンバーガーがあったことが嬉しいんだそうです。（この店にも四川風のマーボーチキンバーガーがあるのですが、誰も買わなかったようです）

こんな風に中国初日は過ぎて行きました。広い中国、滞在期間は25泊です。

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.12 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.11

DAY 114 Dhulikhel, Nepal No. 3

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

野尻班最終日です。

そして私のブログも今回でひとまず終了です。

前回のブログでもお伝えしましたが、野尻班が最後の写真展会場に選んだのは
ドゥリケル旧市街の中心にあるお寺です。

前回までは濱口さんのブログ内で紹介があったIN HOUSE PRODUCTIONの方々の協力の中で
場所等を決めながら進めてきた写真展でしたが、最終日は全て自力での開催となりました。
それでは最終日の野尻班の奮闘ぶりをお伝えします。

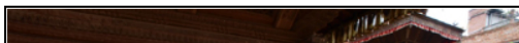
The final day of Team Nojiri. It's my last blog for the time being, too.

As I informed you by my previous blog, the venue of the exhibition where Team Nojiri arranged
was at a temple at the center of the old town of Dhulikhel. Until the previous venue, the event
was organized in cooperation with IN HOUSE PRODUCTION as Hamaguchi mentioned in her blog.
However, the this one was done all by ourselves. Now, let me show you the work of Team Nojiri.



この日の朝も、私が連れて来た霧で街はこんな様子に。

As you can see, it was foggy this morning again. I brought it here with me...





そんな中メンバーは朝一に道具の買い出しを済ませた後、会場を視察し最終的な展示方法を確認しました。展示はお寺の壁面を使用することになったのですが、レンガではテープが付かず、上手く展示出来ないのではと悩んでいましたが、実際にレンガを見てみると思った以上にテープの付きが良く写真はそのまま貼ることにしました。Under such condition, the members did shopping to get some tools first in the morning. Then, they visited the place to confirm everything as to how the pictures should be exhibited. We decided to use the wall of the temple to put the pictures, but we worried whether adhesive tapes could work or not. However, it worked well actually.



裏面にテープで補強を施し、雨や湿気で写真が破れないようにしています。また岡田は経験を活かしタイトルや宣伝用のポスターを制作しました。このような作業では各自の個性と得意分野がしっかりと活かされます。なかなかのチームプレーで私の手は必要ありませんでした。We reinforced with the tape on the back side of the pictures not to be damaged by the rain or humidity. Using her experience, Okada made a title design and a poster for advertisement. For this kind of work, characteristics and strong points of each members are used fully. In fact, their good team-play didn't require any of my help.

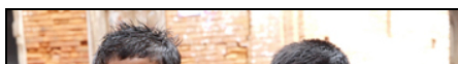




完成した写真を持って早速展示の準備ですが、準備している最中から周囲には人だかりができ、展示作業をしながら同時に写真展も開催されたような感じです。
The students were still putting their pictures, but local people already came to see them. So, it was like opened already.



そんな中、見覚えのあるカメラで写真を撮っている人を発見！
そうですOLYMPUSのデジカメです！
最近、写真展を開催した3期生の太佐さんのがOLYMPUS様の協賛のもとフィールドワーク中に使用していたカメラと同じものです。
異国の地で見つけたカメラに興奮を隠せず、おじさんが困惑しつつも写真を撮らせて頂きました。
Among the people, I found a person who had a familiar camera! Yes, Olympus digital camera! He was using the same camera as Ms. Osa (the 3rd batch FW student) was using during her fieldwork trip (Olympus sponsored it). For your information, Osa had her photo exhibition in Japan recently.
Anyway, it was excited to find such a familiar camera in a foreign country. He was a bit wondering but I could take his photo.





左の少年は、私の代わりに集合写真を撮ってくれたりいろいろ活躍してくれました。
 彼が「ドゥリケルを忘れないでね」と言ったことは今でも鮮明に思い出します。
 ありがとう。

A boy on the left helped me a lot. For example, he took a group photo for me. I still remember
 very well about what he told me. He said, "Please don't forget Dhulikhel". I thank him.



左の少年は彼の母親曰く
 私と彼が兄弟のようでも嬉しいから、二人で写真を撮ってくれ！とのこと。
 大歓迎です。

The mother of the boy (left) asked me to take a photo with him because we were like brother.
 Most welcome!



そして、右奥の緑のシャツを着た青年。
 彼は今回の写真展のもう一人のメンバーと言えるくらい大活躍でした。
 そして私たちは「またドゥリケルに来る時は連絡するね。」と約束しました。
 A man on the green shirt on the right. He helped us a lot as if he was the member of the team.
 We promised him that we would contact him if we visit Dhulikhel again in future.





野尻班も他の班と同じで、本当に色々な苦労をしました。
それでも各メンバーがそれぞれ得意分野を活かし写真展を成功させました。
言葉の壁で苦しい思いをしたり、自分たちの思い通りにいかないことも沢山あったはずですが、
しかし、それら全てが良い経験であり財産になるのではと思います。
Team Nojiri had a hard time just like other teams did. However, they could succeed their photo
exhibition by using each member's strong points. Language barrier was there and the students'
wishes did not always went through. However, after going through all these, I'm sure that such
experience will become precious one for the students for their carriers.

今回で齊藤のブログは最後になりますが、
お世話になりました方々、そして学生のみんな、本当にありがとうございました。
また韓国で会いましょう。
Well, before closing my last blog, I'd like to show my gratitude to all of those who helped me and
all the students. I'm looking forward to seeing you again in Korea.

10.07.10

DAY 113 ドゥリケル 2 Dhulikhel, Nepal. No. 2

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

野尻班、ドゥリケルでの写真展2日目の様子です。
Day 2 of Team Nojiri. Dhulikhel Photo Exhibition.

2日目はドゥリケルから西に2kmほど山を下った場所にあるバネパ(Banepa)という街の学校で写真展を開催することになりました。
On the 2nd day, the venue of the photo exhibition was at a school in Banepa town, about 2km down to the west from Dhulikeru.

このバネパは表通りには比較的大きな建物が立ち並び、ドゥリケルとは街の雰囲気が大分違います。しかし、表通りの建物の裏は畑が広がっており、何とも変わった街の作りをしています。
The atmosphere in Banepa is quite different from the one in Dhulikhel mainly because there are relatively bigger buildings on the main street here. However, the structure of the town is quite unique, I found, because there are farming lands just behind of those buildings.

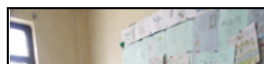
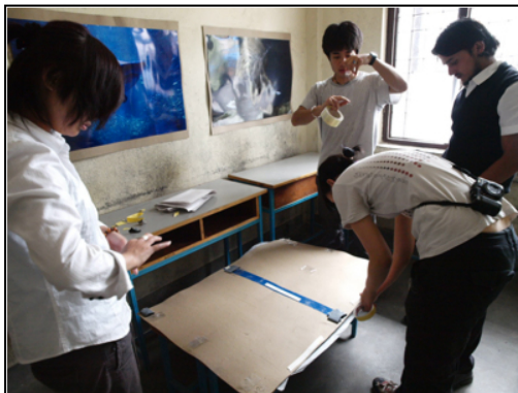
そんな中で始まった彼らの写真展は初日に続き大騒ぎでした。
The exhibition opened in such area became chaos just like the first day.



ご覧の通り、到着と同時に映像投影用スクリーンの取り付けです。
As you can see, as soon as the students arrived at the place, they started to work to fix the screen for the projector.



データの完成を待たずして、このような状況に...
Before completion to compile the data, the place became like this.....





一方、メンバーは急いで写真展の準備です。
The members were in a hurry to prepare the exhibition.

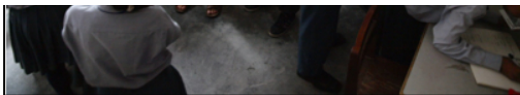
写真を張る為にガムテープを使用したのですが、それによって壁に書かれた壁画等がはがれてしまいそうになるなど様々なトラブルに見舞われました。
We had many kinds of troubles. For example, the wall paintings were about to peel off because of the masking tapes we used to put the pictures on the wall.

2カ所の離れた教室を使用する為に、思ったようなレイアウトすることができず、メンバーは様々な苦労をしました。しかし無事写真展は始まり、現地の子供達がつぎつぎに訪れてくれました。
Using the 2 different rooms also made the situation complicated because the students could not do the layout as they wished. Anyway, the exhibition was opened without major problem and many local children came one after another.



そして今日もご覧の通り。
Today again, as you can see.





何か激しい渦の中にいるようです。
We felt as if we were in the middle of a heavy maelstrom





1 日目に続き、嵐のように終了した2 日目の写真展。
初日に続き予想以上の来場があり、メンバーは気力、体力共にかなり消耗したようです。
そんな中でも今回の写真展を通して、様々な反省点や課題が浮かんで来たようです。
It was again like the storm being gone after the Day 2 ended. We had more visitors than we expected. The members seemed to be exhausted both mentally and physically. Through today's experience, they realized various problems and points to be re-considered.



最終日はドゥリケルの街の中心にある、寺院にて写真展を開催します。
どのような写真展になるのでしょうか。
The last day of the exhibition will be at a temple at the center of the Dhulikhel, town. I'm curious as to how the exhibition will go.



そして今日も濃霧。
It's dense fog today again., of course.



カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.10 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

DAY 112 ドゥリケル 1 Dhulikhel, Nepal, No.1

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

ネパールでの写真展の様子も今回で最後です。
そして最後にお伝えするのは野尻班（岡田、野尻、濱口）です。
This is the last episode about photo exhibition in Nepal. Finally I'd like to introduce Team Nojiri (Nojiri, Okada, and Hamaguchi).

彼らが写真展を開催するのはドゥリケルという小さな街です。
ドゥリケルはカトマンズより東に30km程に位置し、車で1時間半の道のりです。
そしてこのドゥリケルは1500mの高地に位置し、晴れるとヒマラヤも望める素晴らしいロケーションだそうです。
The venue of their exhibition is at a small town called Dhulikhel located about 30km east from Kathmandu, or about 1.5 hours by car. The altitude of the town is 1500 meter above sea level. You can see even Himalaya on a fine day. It's a wonderful place.

野尻班は私が現地に向かう3日前から現地入りし、準備を進めていました。その際は天気も良く、ずいぶん良い眺めだったそうです。それだけではなく夜には空一杯の星も見ることが出来たそうです。
Team Nojiri was there 3 days before me to prepare the event. They told me that during those 3 days the weather was so good and they enjoyed wonderful views. Not only that, they could even enjoy beautiful sky filled with stars.

なぜ「だそうです。」なのかと言うと、実は私がドゥリケルに到着したその日から、野尻班が写真展を終了するまでの全体的な日が、霧や雨、時には道路が川になる程の大雨に見舞われてしまったからなのです。彼ら曰く、私が雨をつれてきてしまったとの事です。申し訳ないばかりです....
Do you know why I have to mention about what I was told by the students? Because after my arrival, the weather became so bad throughout till the end of the event. It became misty, rain, or huge rain (some roads even became like rivers...). My students complained me because it was like me who to bring such rain. I was so sorry about that....

結局素晴らしい景色は濱口のデジカメで拝見させて頂きました。
この目で見たかったです....
I could see the beautiful scene with a lot of sun only on Hamaguchi's pictures recorded in her digital camera. I wish I could also see the real one through my own eyes...

それでは写真展の様子です。
一日目はドゥリケルの学校での開催です。
Now, let me show you some photos of the exhibition. On the first day, it was held at a school in Dhulikhel.

私が到着したときには開催まで数十分と迫っており、私も展示の手伝いをしました。なんとか展示も間に合い、会場時間になると想像を遙かに上回る人数の学生さんが写真展会場を訪れてくれました。
When I arrived at the place, we had only several ten minutes left before the opening hour. So, I had to help them, too. Anyway, we managed to finish all the preparation in time. Then far more students than what we expected came.





本当に凄い人でした。
It was really amazing to have so many visitors.



メンバーはみな質問攻めに遭いました。
All members were asked many many questions.





水族館というものを理解してもらうことにとても苦労していたようです。
They seemed to have difficulty to make visitors understood about an aquarium.



最後に写真展を訪れてくれた学校の生徒さんと記念写真です。
Lastly, a group photo with the Dhulikhel students.

メンバーが準備した芳名帳代わりのノートも本来の目的を失い、来場者の人数を数える事はもはや不可能でした。
We had too many visitors to keep the Visitors Note. It became impossible for us to count the number of the visitors any more.

そして、私の連れてきた雨雲は写真展終了時に本格的に活動を開始しはじめ、撤収の時間が随分遅れてしまいました。最終的に完全に雨が止むことはなく、強行に出た結果...
And, rain and cloud I brought with me became very active and serious after closing the event. Wrap-up the place, of course, was delayed a lot. The rain continued, but we tried to clean up the place. Then result was



このような形になりました。
それでもなんだかみんな楽しそうです。
.....like this. But they all look happy.

あと二日、どんな事になるんでしょうか....
2 more days to go. I'm curious as to how the exhibition goes.

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.10 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.09

DAY 111 バクタプル Bhaktapur, Nepal

[Tweet](#)

[いいね!](#) 0

[チェック](#)

今回は穂積班（谷本、穂、穂積、矢野）の写真展の様子をお伝えします。
I'd like to show the photo exhibition by Team Hozumi (Hozumi, Tanimoto, Tsubaki, and Yano).

彼らの写真展会場は世界遺産でもあるカトマンズの渓谷(Kathmandu Valley)の中にあるバクタプルという人口約8万人の街です。レンガ作りの建物や寺院が多く立ち並び、長い歴史を感じさせる街です。

The venue of their photo exhibition was at the World Heritage town called Bhaktapur, about 80,000 population located within the Kathmandu Valley. The town has many brick-made buildings and temples where you can feel long history.

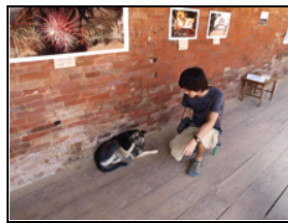
そんな中彼らの写真は、街中の広場に隣接する建物の壁面を展示スペースとして使用していました。街中の広場という事で観光客から地元の人まで常に人が行き交い、写真を飾るには絶好の場所と感じました。実際に私の滞在した時間は約2時間程でしたが、常に写真展を見ている人がいる状態で、学生達も様々な質問に答えていました。

The students used one of the walls as a exhibition space. It was next to the public square in town. Because of the good location, many people like tourists and locals were around all the time. I felt that it was the best location for the exhibition. Although I could stay there only for about 2 hours, people were always there to see the pictures. The students were also trying to answer to various questions from them.





五重塔や寺院が建ち並び静かな雰囲気に親近感が湧きます。
A five-stories pagoda and temples. I have even a sense of closeness because of its quiet atmosphere.



穂積班がお世話になった日本語学校の校長先生（左）と弟さん（右）と穂積（中央）
Principal of a Japanese language school (left), his brother (right) and Hozumi (center). They kindly took care of the members of Team Hozumi.





写真について説明をする矢野
Yano explaining about the pictures.



私を撮影する椿
Tsubaki taking my pictures.



写真の説明をする椿
Tsubaki explaining pictures.



日本語学校の生徒さんと矢野
Students of the Japanese language school and Yano



穂積
Hozumi



地元の子供達と谷本
Local children and Tanimoto

前回の小林班と同様、初めから自力で準備をし最終的に形になった写真展はどの班も特徴がありそれぞれがみな満足のいくものとなっているようです。

Just like Team Kobayashi, such photo exhibition which was prepared/organized from zero by the students themselves has each unique characteristics. And it seems to become a quite satisfied events for the students.

彼らが日本で撮影した写真が全く未知の異国で鑑られる事で生じる何らかの意味や、それによってもたらされる感動は決して大きなものではないかもしれませんが、それだけで非常に意味のあるものだと思います。

Meaning or impression of which visitors can get or feel when they see the pictures taken in Japan may not be so great, but I still believe that it is quite significant for the students to have this kind of experience abroad.

最後は野尻班ですが、彼らも素晴らしい写真展を完成させてくれる事でしょう。
I'll visit Team Nojiri last. I'm sure that they also succeed their photo exhibition.

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.09 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラッキングバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.07

DAY 110 カトマンズ 3 Kathmandu, Nepal. No. 3

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

今回は小林班の2回目の写真展の様子です。
I'd like to show the 2nd exhibition by Team Kobayashi.

小林班が2回目の写真展会場に選んだのはカトマンズから車で20～30分程離れた「CHAPALI」という地区にある空き地です。この空き地は決して写真展を開催するのに適している訳ではありませんし、周囲に至って平凡なネパールの田舎風景が広がる場所です。しかし前回のOSHOと比べ、ある程度人通りがあり、材料等も調達しやすく宿からも近い。こんな場所を目の前にし、彼らが迷う理由はありません。

The place was an empty lot in Chapali area, about 20 to 30 minutes away from Kathmandu by car. This lot was not suitable for a photo exhibition. It was just one of normal country sides. However, comparing to the previous venue, OSO, this place got relatively more people, easier to get stationary and other materials, and close to our hotel. There was no reason for the students standing in front of such a good place to hesitate not to decide here for the venue.

しかしここでも大変だったのは展示方法。空き地はまさにただの空き地なのです。
However, again, the problem was how to display the pictures. This lot was just an empty space.

そして彼らの中で具体的な展示の方法がなかなか浮かびません。また、現地で彼らの写真展をアレンジして下さっていたビシュアさんとも写真展の具象的なイメージを共有する事が出来ず苦労しました。

The students could not hit upon any good idea soon about how the pictures could be exhibited. Not only that, they could not share the image well with Mr. Bishua who has been helping the students to arrange the exhibition.



周囲の畑に使用されている竹組を展示の参考に出来ないか視察。
Checking bamboo fence for the farming field to refer for the exhibition.



大まかな場所を決め、現地の人と交渉するメンバー達。

The students decided the rough area for the exhibition and are negotiating with the locals about the usage of the area.



のこぎりの刃を研ぐ遠藤。
Endo sharpening the saw.

その後、地元の農家の方にスコップ等の道具を借りて実際に写真展の準備です。あまりの作業の過酷さの為に、この間の写真がありませんがご了承ください。
Then, the students have started to organize the place by borrowing shovels from local farmers. Please pardon me not to have many pictures due to too much heat during the work.

その後、レンガを使用して柱を強化したり、柱が倒れないようにひもを使用して固定したりと四苦八苦。それでも最終的にその広場を、彼らの写真で写真展会場に変える事が出来ました。
Then, they reinforced the pole using bricks and fixed the pole using the rope. It was hard work.

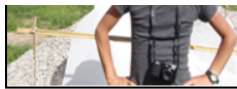


作業に興味深げに見守る人々。
Local people looking at the students' work with a lot of curiosity.



写真の前での記念写真。
Small girls in front of the pictures.





写真展のポストカードを配る浅井。
Asai distributing post cards of the event.



終了時間を前にみんなで記念写真。
Group photo just before closing the day.

私は翌日別の班の写真展を見学しに別の場所へ移動となりましたが、小林班の写真展はこの後2日に渡って開催されました。
I moved to another place for the different group on the following day. Team Kobayashi's exhibition here was on for the next 2 days.

2日目以降も噂を駆けつけて多くの方が訪れたそうです。一から手作りの写真展は成功のうちに終了したそうです。小林班のみんな、本当にお疲れさまでした。
I was told by the students that many visitors came after the 2nd day as well by hearing the news of the event from their friends etc. All hand-made photo exhibition ended successfully.
Good job, Team Kobayashi !

カテゴリ:

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.07 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.05

DAY 109 カトマンズ 2 Kathmandu, Nepal

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

学生達は今日から写真展に向けての準備を開始します。
私は今回小林班の写真展開催までに同行することになりました。

The students will start to prepare for their photo exhibition from today. Myself, I've decided to come along with Team Kobayashi till the opening day of their exhibition.

小林班は今回ネパール滞在中に、2カ所で写真展を開催することになりました。
初めの展示会場に選んだのは、カトマンズ市内から車で30分程の自然豊かな山の中にある「OSHO TAPOBAN」という施設。

Team Kobayashi will hold their exhibition at 2 places while they are in Nepal. The first place is a facility called "OSHO TAPOBAN" located in a mountain, about 30 minutes away from Kathmandu city by car.

ここで学生達が選んだ展示方法は竹とロープを活用した屋外展示。
幸い出力してきた写真は顔料インクを使用していた為、
もしもの雨でも問題なく展示が出来ます。

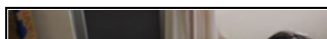
The students planed to have an outdoor exhibition using bamboos and ropes. Even if it rains, it shouldn't be a problem because fortunately the pictures were printed by pigments ink.



展示に使用する竹を加工する遠藤。
Endo cuts a bamboo for exhibition



遠藤が切り出した竹をきれいに洗う小林。
Kobayashi washes those bamboos which Endo cut.





大自然の中で爽やかに作業をしているように見えますが、
実はこの施設、山の斜面を利用した非常に傾斜地に作られています。
そのため、受付から宿泊棟、そして作業場までの高低差は何十メートルあり
長い階段を何往復もしなくてはなりません。
作業が進むにつれて我々の体力はどんどん消耗していきました....

They look fine in a nature but in fact they are getting exhausted as work proceeds. Why? Because
the place is just on a very sharp slope of the mountain. That means, the difference of the height is
several ten meters from the reception to the hotel rooms or to the working area, and you have to
go up and down long stairs many times.

そして昼過ぎに必ず訪れるスコール。
作業がストップします。
After lunch hours, squall everyday. Then, our work must stop.





雨で汚れた写真を水洗い。
Washing the dirty pictures by fresh water



そして天日干し。
Then, dry it under the sun





全ての写真を飾り終え、全て手作りの写真展が完成しました。
今回の経験を活かし、次回の展示がどのようなものか楽しみです。

After putting all pictures on the ropes, the preparation completed.
After this experience, I'm curious as to how the next exhibition would be.

カテゴリ：

post by 引率スタッフ | 日時: 2010.07.05 | [バーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

海外フィールドワーク引率ブログ2010 > 2010年07月 アーカイブ

10.07.04

DAY 108 カトマンズ Kathmandu, Nepal

[Tweet](#)

[いいね!](#) 0

[チェック](#)

約1ヶ月にわたったインドでの生活も終わり、ネパールに到着しました。
ここネパールでも、街中の空気は日本に比べれば汚れてはいませんが、
インドを経験してきた学生達にとってネパールの空気の良さと涼しさは嬉しいものです。

After staying in India for about a month, we came to Nepal. Here in Nepal, although the air is not as clean as the one in Japan, it is still better and nicer for the students who came through India to have cleaner and cooler air.



カトマンズの空港で一枚。
Photos taken at the Kathmandu Airport





バスにてホテルへ移動。
Proceeding to the hotel in town by bus



ここカトマンズには日本食のお店が多くあります。
There are many Japanese restaurants here in Kathmandu.

早速私たちは熊倉局長おすすめの日本食料理屋「ふるさと」「ヒマラヤそば処」を二日に分けて訪れました。
So, once we settled, we visited two of the restaurants called "Furusato" and "Himarayan Soba Dokoro" where Mr. Kumakura recommended in two days.

まず初めに訪れた「ふるさと」のメニューには鯖の味噌煮、すき焼き、天丼や納豆等の本格的な日本食が揃っています。久しぶりの本格的な日本食を前に皆悩みます。そして、結局一人で3人前もオーダーする学生も...。
First, Furusato ("Furusato" means hometown in Japanese). In the menu, they got real Japanese food like "sabamiso" (boiled mackerel in miso), sukiyaki (sliced beef and vegetables cooked at the table in a shallow pan), tendon (a bowl of rice topped with tempura), natto (slimy steamed soybeans fermented in rice straw), and many others. You just name it. Seeing such serious names, the students had hard time to select one. In the end, one student even ordered 3 portions for himself...



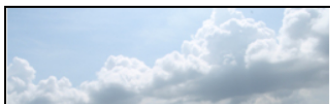


そして翌日訪れた「ヒマラヤそば処」では本格的な手打ちそばを食べる事が出来ます。そばのおかわり自由と言う事もあり、お店が準備していたそばを全て食べきる食欲で、みんなお腹いっぱいそばを満喫しました。

On the second day, we visited Himarayan Soba Dokoro where you can enjoy real hand-made soba noodles (buckwheat noodles). Not only that, you can even eat as much as you like without any extra charge. So, what happed was, the students finished all the noodles of which the restaurant prepared for the day. They became completely full and really enjoyed it. It was like a paradise!



限界まで食べ、みな満足。
Satisfaction after eating to the max





明日からは写真展の準備です。
どのような写真展になるでしょうか。

They will start to prepare for the photo exhibitions from tomorrow. I'm curious as to what kind of exhibition it will be.

最後に写真展の開催地へ向かう学生達の様子です。

Lastly, some photos of the students leaving for the venues of their photo exhibitions.



野尻班 (岡田、濱口、野尻)
Nojiri Group (Okada, Hamaguchi, Nojiri)



激しく見送る他のメンバー。
Waving very hard to see off their classmates.



穂積班 (椿、矢野、穂積、谷本)
Hozumi Group (Tsubaki, Yano, Hozumi, Tanimoto)



そして小林班 (小林、浅井、遠藤)
and.... Kobayashi Group (Kobayashi, Asai, Endo)